

授業評価アンケート結果報告書

関西学院大学大学院司法研究科
(関西学院大学ロースクール)

2011 年度春学期

関西学院大学大学院司法研究科

自己評価・FD委員会

2011 年 12 月 1 日

関西学院大学ロースクール

2011年度春学期授業評価アンケート結果報告

はじめに

本授業評価アンケート報告書は、2011年度秋学期に開講したすべての授業科目（一部の科目を除く）についての学生の評価、および担当教員の自己評価であり、2004年度から毎学期実施しているものである。

関西学院大学では、すでに早くから教育水準の向上を目指した総合教育研究室を設け、この研究室を中心として学生による授業評価の実施や学生の授業等に関する意識調査などを継続的に行っており、それらの調査の一部は報告書というかたちで公表されている。さらに、2002年度からは、ファカルティ・ディベロップメント（いわゆるFD）を全学的に推進していくための学内組織を設立し、ネット上で学生による授業評価をリンクするなどの試みを実現している。

本ロースクール（関西学院大学大学院司法研究科法務専攻）は、学内におけるこれらの試みをさらに一歩前進させたと言っても過言ではないだろう。その内容は開学にむけた「設立趣意書」のなかにおいて、次のように示されている。「授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修等の実施に関する対応」をすることを公表し、そのために「a.授業内容に関しては、春学期、秋学期の授業終了時に受講生による授業評価を実施する。授業評価は、次のとおり実施する。①全開講科目で実施する、②評価の結果は内部で公表する、③評価結果に基づく、教育方法に関する研修会を毎学期終了時に実施する、④評価で特に優れた教員については、これを表彰する、⑤評価で芳しい結果が示されなかった教員については、研究科長が面談し、改善を要請し、具体的方針を確認する。b.授業内容および授業方法の改善を図るための委員会を設置し、年間を通じて授業方法を検討し提言を行う。c.授業内容や授業方法の改善のために、学内外の専門家、経験者を招き、研究会、講習会等を実施する。」などの具体策を構想し、提案している。

このような設立の趣意に基づいて、2011年度春学期の最終授業時に実施したアンケート結果の概要およびその分析等が、本報告書の主要な内容である。

（なお、個別授業に対する個別評価を含めたこの結果は、関西学院大学ロースクールの学生およびロースクール授業科目担当者を対象にウェブ上で公開する。）

目 次

1. 授業評価の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2. 調査実施方法及び期間・・・・・・・・・・・・・・・・	1
3. 学生による授業評価アンケート・・・・・・・・	3
4. 授業担当教員による授業自己評価アンケート・・・・・・・・	6
5. まとめと今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・	8

【付 録】

2011年度春学期開講授業科目一覧

＜アンケートフォーム＞

1. 授業に関するアンケート（アンケート用紙）
2. ロースクール教員の担当科目自己評価表
3. 授業評価結果に対するコメント用紙

＜アンケート全体集計結果＞＜アンケート科目群別集計結果＞

1. 授業評価アンケート全体集計結果（全体集計）
2. 授業評価アンケート全体集計結果（評価点比較）
3. 授業評価アンケート科目群別集計結果

＜アンケート授業別集計結果（サンプル）＞

1. 授業評価アンケート授業別集計結果
2. 授業評価アンケート授業別集計結果（評価点比較）
3. ロースクール教員の担当科目自己評価表
4. 授業評価結果に対するコメント

1. 授業評価の目的

授業評価の目的は、本アンケートを通じて本ロースクール学生自身の勉学面での実態および授業に対する認識・反応などを分析することで、教育の質向上に反映させることのできる基礎資料を提供してロースクール教育の改善を図ること、また、ロースクール固有の教学上の諸課題を把握し、解明することにある。

殊に、学生による授業評価にあわせて、講義担当者による自身の講義に関する自己評価を実施していることは、本ロースクールにおける授業評価の特徴である。各教員は、定期試験実施直前に授業を振り返ってアンケートを記入する。さらに、2005年度秋学期からは学生のアンケート結果を踏まえたコメントの提出を講義担当者に求めることにした。以上の試みは学内で初めて行われているものであり、学生の授業評価と相互に比較検討することで、より良い授業のためのヒントが得られていると考える。

この調査の企画、調査票の作成、および集計結果についての分析と本報告書の執筆については、本研究科教授会のもとに設置された「司法研究科自己評価・FD委員会」のメンバーを中心に行われた。ロースクールは2004年4月に日本で初めてスタートした新しい専門職大学院であるため、アンケート項目、帳票等、試行錯誤の繰り返しであった。こうした取り組みのなかで、3年目の春学期より、担当授業科目の値と所属する科目群の平均値の比較が容易にできるよう授業科目群別集計結果の帳票を新たに作成した。また授業別の集計結果についてはレーダーチャートを取り入れ、見やすさの工夫を行った。さらには4年目の春学期からは、アンケートの設問項目の継続性を勘案しながら、より現実に即した設問項目に追加変更をした。5年目の春学期からは集計結果の帳票を変更し、学生自身の授業に臨む態度をもとに各設問の評価点を比較できるように工夫した。7年目の春学期は、アンケート自由記述欄に「予習・復習に関する意見を書いてください」を加えた。また8年目の春学期は、予習・復習に関する意見から学習上の成果を問う内容に変更した。今後も検討を重ね、課題があれば修正を加えていきたい。

なお、調査の実施方法については、以下の「調査実施方法及び期間」に示した。今回の調査でも、ほとんどの授業科目および学生からの回答が得られ、アンケート回答回収率は91.6%となった。

アンケート実施にあたって協力をしていただいた各教員には感謝申し上げたい。また、実際に回答を寄せていただいた学生諸君、アンケートの実施と回収を担当した司法研究科事務室と教務補佐の方々、さらに調査票の整理などの一番煩雑な作業を担当した司法研究科事務室にも感謝の意を表したい。

2. 調査実施方法及び期間

司法研究科における授業評価は、2004年度春学期に初めて実施し、今回は15回目の実施である。

今回行った授業評価は、第1回目から同様、主としてアンケート用紙による学生および

教員からの回答という方法で行った。アンケートの内容は、それぞれ、本報告書の中に添付されているので、それらを参照されたい。

(1)実施対象授業科目について

実施対象授業科目（コマ）は、2011年度春学期に開講された50科目（128コマ）中、「エクスターンシップ」「クリニックA」「クリニックB」および履修者数が1名のクラス（特別演習2、日本法）を除く46科目（118コマ）であった。

(2)回答者、回答率等について

回答者は、本学ロースクールの正規履修者もしくは他研究科よりの科目履修者でアンケート実施日の出席者（受講生）に限定された。これらのアンケート調査実施の対象となった受講者数は、延べ2,034人で、回答者数は、延べ1,862人であった。したがって、回答率は91.6%となった。

(3)実施期間について

アンケートは、原則として2011年度春学期開講の各科目の最終授業日にあたる2011年7月11日（月）から15日（金）に実施した。

(4)アンケートの実施

アンケートの実施は、各授業開始時の10分間に教務補佐等がアンケート用紙の回答方法について簡単な説明を行ったうえで用紙を配付し、受講者が回答した。回収も教務補佐等が行った。なお、授業担当者はアンケート実施中に同席せず、アンケート終了後に入室し、授業を開始した。

(5)集計および公表について

本報告書は、それぞれの項目の集計を中心に行った。また2008年度から、受講者の予習・復習の度合いと授業の難易度を評価軸として、他の設問についての評価点を分析する方法も取り入れている。

また履修者が1名の授業科目については集計処理を行うものの、評価者のプライバシー保護の観点から公表を見合わせている。

(6)記述評価項目について

アンケート用紙の記述評価項目および、a)「この授業で良かったところを具体的に書いてください。」、b)「この授業をよりよくするための提案があれば書いてください。」、c)「この授業を受けてあなたが得た学習上の成果はどのようなものでしたか。具体的に書いてください。」については公表の対象とせず、授業改善のための参考資料として、筆跡が分からないようすべてタイプし、記入者を特定できない形にして授業担当者本人に直接届けられている。なお2010年度春学期より、自由記述についての教員間での共有を行うことになった。

ただし、2008年度秋学期より、記述評価項目に記載された内容のうち誹謗中傷や人格攻撃であると判断できる記述については、事前に本委員会において検討し、教員本人には伝達しないことにした。これまで実施してきた本アンケートにおいて、授業に対する厳しい

批判も含めほとんどの履修者は率直な意見を書いていると思われるが、一部については「授業内容及び方法の改善を図る」という本来の趣旨を逸脱した真剣さの見られない誹謗中傷の類の記述が散見された。ごく一部とはいえ、将来、法曹を目指している学生を目指している学生が教員の人格を否定するような記述をしていることは、本研究科としても非常に残念なことだと考えている。よって、本アンケートの本来の趣旨に則り、授業に対する意見については厳しい批判も含めてそのまま教員に伝達するが、それを逸脱した誹謗中傷や個人攻撃については伝達しないという措置をとるに至った。なお、この措置については事前に学生諸君に通知しており、且つほとんどの学生はこの趣旨を理解してくれていたようで、以降のアンケートでは誹謗中傷・個人攻撃の類は少なくなった。

3. 学生による授業評価アンケート

(1)はじめに

2011年度春学期の結果の詳細については、後掲のようになっている。質問項目については、今年度も2010年度春・秋学期と同一とした。そのうえで、今学期は、学生の授業への満足度・達成度に関する総括的な質問項目である設問7および8と他の設問の評価点との相関関係について、分析を加えてみた。また、2004年度から始めた授業評価アンケートにおいて今回とほぼ同様の設問を繰り返してきたことを振り返って、アンケート全体評価値の経年推移を一覧表にしてみた。そこで、以下では、全体集計に関して、アンケート評価値の経年推移を概観したうえで、上記の相関関係分析の結果を検証し、さらに科目別集計結果について特徴的な点を指摘したい。

(2)回答数

回答総数 1,862 で、その内訳は、学年別では1年生 318・2年生 781・3年生 733、他学部等 3、既修・未修別では既修 693・未修 1,140、出身学部別では法学部出身 1,448・その他出身 387であった。なお、回答総数は昨年より若干減っている。

(3)設問内容

具体的内容は後掲の通りだが、質問を群別に分けると、質問群①教員の授業方法に関するもの（設問1～6）、質問群②学生の授業への満足度・達成度に関するもの（設問7・8）、質問群③学生の授業に対する態度に関するもの（設問9～11）となる。そのほかに、単独ではあるが、総括的な質問の1種として、④予習量への感じ方に関するもの（設問12）、また、制度に関する質問として、⑤1クラスあたりの履修者数に関するもの（設問13）がある。

(4)アンケート集計結果

(i)全体集計

① アンケート全体評価値の経年推移について

アンケート全体評価値の経年推移であるが、法科大学院設立当初の2004年度から2008年度までは、毎年春学期において、質問群①教員の授業方法に関するもの（設問1～6）

の一部のポイントが3.9、質問群②学生の授業への満足度・達成度に関するもの（設問7・8）のポイントがいずれもほぼ3.9にとどまるものの（なお、そのほかの質問群①②の評価値はいずれも4.0を上回っていた）、秋学期になると質問群①②のどの項目もポイントが4.0を上回るようになるということの繰り返しであった。

それが、2009年度以降は、毎年春学期から質問群①②のどの項目もポイントが4.0を上回るようになり、秋学期には平均してさらに0.1ポイント程度上がるということが繰り返される状態となった。そして、各設問毎のポイントを見ても、毎年ほぼ同じ全体評価値が繰り返される状態となっている。

各設問のポイントが常に4.0以上で揃っているということは、教員の授業意図の実現や授業満足度が全体としては一応及第点を与えられるものになっていると評価でき、この間の授業方法の改善努力がそれなりの効果を挙げていることのあらわれと言えるだろう。ただし、ポイントをこれ以上上げるのはなかなか難しいとも言えるかも知れない。

他方、質問群③学生の授業に対する態度に関するもの（設問9～11）については、設問9（わからないところを質問したか）が長らく3.5～3.7で推移し（このところはほぼ3.7で動かない）、設問10（予習度）はわずかな例外を除き3.6～3.7程度で推移しており、設問11（復習度）は2008年秋に3.5になったことがあったものの、このところは3.2ないし3.3程度になっていて、むしろ下げ止まり気味である。いずれにせよ、質問群③がポイント4.0以上になったことは一度もなく、4.0の及第点を与えられるようになるのは程遠いという様相を呈している。復習度に至っては3.5にも及ばないというのは、かなり問題と言わざるを得ない。

今後は質問群③のポイントをどのように上げられるかが、大きな課題であり、予習・復習の度合いと質問群①②の各項目とのポイントとの相関関係が認められていることからしても、授業の効果をより高めるには、学生の授業に対する態度の改善をどう図るかが、焦点であると言ってもよいようである。

② 設問7および8と他の設問の評価との相関関係について

前述したように、今学期は、学生の授業への満足度・達成度に関する総括的な質問項目である設問7および8と他の設問の評価との相関関係について、グラフを作成して分析を加えてみたが、いずれについても高い相関関係が示されている。

予習・復習の程度と設問7・8の評価の度合いとの相関関係についてはこれまでも指摘されてきたことであるが、ただし設問7・8について3（どちらとも言えない）以下の評価をしている人の中では予習・復習の程度にはほとんど差がないことが見て取れる。むしろ、設問7・8の評価の高低と設問1～8の他の項目との相関の方が、5（強くそう思う）から1（全くそう思わない）に至るまでより強い相関を示していることが指摘できる。特に、設問7（法的知識・法的思考力の増大）と設問2（学生の理解度を確認しながらの授業進行）、設問5（教員の説明のわかりやすさ）、設問6（履修者の質問への的確な応え）との相関はより強く出ており、設問8（授業の満足度）についても同じく設問2（学生の

理解度を確認しながらの授業進行)、設問5(教員の説明のわかりやすさ)、設問6(履修者の質問への的確な応え)との相関がより強く出ている。なお、設問7と設問8の間もまた当然ながら強い相関が示されている。

要するに、教員が学生の理解度を確認しながらわかりやすく説明するとともに、履修者の質問に的確に答えるかどうか、学生の授業への満足度・達成度とほぼイコールの関係になっていると言ってもよいようである。もちろんこのような指標は、授業のあるべき姿を全て表しているとは限らない(例えば履修者が受け身で授業に臨んでいてもこの傾向はあらわれる)が、教員がまずもって努力・工夫を要する重要な事柄であることは否定できないであろう。

(ii)科目別集計結果

後掲のように、法律基本科目(1年)から特別演習までの7種について集計がそれぞれされている。ここでは、昨年度の春・秋に比べて今年度春がどうか、という点を中心に、いくつかの特徴的な点を取り上げたい。

第1に、1年生の法律基本科目は、昨年度春・秋と比べてポイントが上がっている。特に、設問3(教員の説明のわかりやすさ)は昨年度春3.6、秋が3.5であったのが3.8にアップし、設問7(法的知識や法的思考力の増大)は昨年度春3.8、秋が3.5であったのが4.1にアップし、設問8(満足度)は昨年度春3.6、秋が3.4であったのが3.9にアップするなど、大きな変化が見られる。ただし、予習・復習の程度については大きな変化はない。

逆に、2年生の法律基本科目は、昨年度春・秋と比べてポイントがやや下がっている。具体的には、設問7(法的知識や法的思考力の増大)は昨年度春4.1、秋が4.2であったのが3.8にダウンし、設問8(満足度)は昨年度春4.1、秋が4.2であったのが3.8にダウンしているなどである。

なお、3年生の法律基本科目は、昨年度からポイントが高かったが、今回さらに上がっている。例えば、設問7(法的知識や法的思考力の増大)は昨年度春・秋ともに4.3であったのが4.5にアップし、設問8(満足度)は昨年度春・秋ともに4.3であったのが4.4にアップしている。

これらの結果、法律基本科目については、従来は1年生のポイントがかなり低く、2年生・3年生と上がるに連れてポイントが上がっていく傾向にあったのが、今回は1年生と2年生が同様かもしくは授業の満足度・達成度に関するもの(設問7・8)は1年生の方が高くなり、これと3年生の高いポイントとの間に差が開いているという状況が生じている。

2年生の法律基本科目の授業のあり方について再度検討を加える必要があると言えよう。

第2に、基礎法学・隣接科目は、昨年度までポイントがあまり高くなかったが、今回はポイントがかなり上がった。具体的には、設問4(双方向・多方向授業の工夫)は昨年度

春3.7、秋が3.6であったのが4.3にアップし、設問7（法的知識や法的思考力の増大）は昨年度春3.5、秋が3.7であったのが3.9にアップし、設問8（満足度）は昨年度春3.6、秋が4.0であったのがさらに4.1にアップしている。授業方法の工夫の成果が現れているのかも知れない。

第3に、このほか、実務基礎科目や展開先端科目はほとんど変わらず、特別演習科目は若干ポイント減があるものの満足度は高いまま維持されている。

以上により、以前は科目群によってポイントにかなり差があった（特に1年生の法律基本科目や基礎法学・隣接科目のポイントが低かった）のが、3年生の法律基本科目と特別演習のポイントがかなり高いのを別として、科目群によるポイントの差があまりない状況になったと言えよう。

このことは基本的には評価できることと言えるが、前述したように、2年生の法律基本科目のように以前よりポイントが下がったものもあり、部分的にはなお改善の努力が必要といえよう。

(iii)自由記述欄

この欄は、a) この授業で良かったところ、b) この授業をよりよくするための提案、c) 予習・復習に関する意見、の3つとした。一昨年度から、この欄については、本委員会による事前の点検を行い、授業の内容・方法とは全く関係ないものや、担当教員に対し人格攻撃等を行うもの、その他適切な表現を欠くものは、本委員会の判断で事前に削除し、その他のアンケート結果のみを、担当教員本人を含む教員全員に配布する処理をしている（学生にはこの欄の記述は配付していない）。今回も、このような処理をおこなったが、削除されたものはごくわずかであった。なお、「予習・復習に関する意見」の欄に、予習・復習と無関係の、授業の感想の付け足し的なコメントを書いた記述が多く見られたが、この点は趣旨を徹底する必要があると思われた。

4. 授業担当教員による授業自己評価アンケート

(1) はじめに

「学生の評価に対するコメント」（以下、「コメント」と略称する）および「今後の改善点」（「改善点」と略称する）は、授業担当教員が、期末授業アンケートにおいて示された学生の授業に関する要望・不満および問題提起にこたえることにより、今後の授業改善をはかるというフィードバック機能を有している。これまでと同様に今回もおおむねいねいかつ詳細な「コメント」および「改善点」が記載されていることが特徴である。

(2) コメント・改善点の概要

(i) 1年次配当科目

「基礎演習」に関する「コメント」および「改善点」の記載からは、教員側が授業内容に対して相当程度の手応えを感じていることがうかがわれる。7名程度という少人数教育が徹底されているため、日頃から授業内容についての受講者との意見交換が行われている

ことがその要因であると考えられる。もっとも、仔細にみれば、受講者の感想との食い違いに対するとまどいもみられるが、そのような点については改善するという姿勢が読み取られる。

「法律基本科目」に関する「コメント」および「改善点」の記載からは、教員側が授業の進度と内容の充実（とりわけ授業が扱うことのできる範囲）の両立に苦心している様子が浮かび上がる。教員としては可能な限り追究すべき課題であることはもちろんであるが、授業進度を遅くすることと内容の充実は相反する要請であることを受講者が理解していないのではないかという疑問も否定できない。多様な学力の受講者たちを念頭におくとき、授業の進度および内容の程度設定の困難さが浮き彫りになる。

(ii) 2年次配当科目

「法律基本科目」に関する「コメント」および「改善点」の記載からは、受講者の学力の多様性および全般的な予習不足に対する教員側のとまどいが読み取られる。授業改善の工夫も行われるべきではあるが、受講者側の予習および復習の充実を期待する以外に方策がないというのも正直なところであり、授業運営の難しさが痛感される。また、一部の授業担当者からは受講者の学力不足を指摘する意見も寄せられている。立場上記載することに躊躇される内容が実際に記載されるという事実が状況の深刻さを物語るように思われる。

また、「実務基礎科目」に関する「コメント」および「改善点」の記載からも、ほぼ同様の事柄が読み取られる。

(iii) 3年次配当科目

「特別演習」に関する「コメント」および「改善点」の記載からは、教員側が授業内容について相当程度の手応えを感じている様子がうかがわれる。10名程度という少人数教育が行われていて日常的な意見交換が可能なこと、入学後1～2年間の時の経過により教員と受講者の間に信頼関係が築かれていることなどが要因であると考えられる。現状で必要とされるのはより多くの特別演習が利用されるための工夫であろう。

「総合演習科目」に関する「コメント」および「改善点」の記載からは、受講者の学力分布の広範さ、全体的な学力の低さに対する教員側のとまどいが読み取られる。授業改善の工夫が述べられる一方で、受講者の意識の改善に期待する旨の意見もみられる。また、一部の教員からは端的に受講者の学力不足が指摘されている。従来あまりみられなかった記載であり、事態の深刻さを象徴するものであるように思われる。

「展開・先端科目」に関する「コメント」および「改善点」の記載からは、教員側の授業内容に対する手応えがみられる一方で、受講目的・意識の多様性に対する当惑も読み取られる。司法試験の科目であるかどうかにより左右される面もあるが、当該科目に対する学修意欲をどのようにして確保するかが大きな課題であることが浮かび上がる。受講者側の満足度の向上が図られるべきことは当然であるが、学修意欲の低い受講者に対する授業担当者のストレスを減じるための制度的な工夫が必要である。

(3) まとめ

既に述べたところから明らかなように、授業の配当年次および系列を問わず、受講者の学力分布の広範さに対応した形での授業改善が必要とされている。もっとも、授業改善は教員側の努力だけでは不可能であり、受講者側の意識の変革も必要である。授業アンケートで可能なのは前者だけであるので、受講者の意識改革のための制度的な方策が必要とされているように思われる。基礎演習および特別演習に関しては受講者および教員双方の満足度の高さがみられることから、受講者が希望する教員のもとで少人数で学ぶという形態が望ましいと考えられる。限られた教員数でこのような授業形態をどこまで実施することが適切であるのかについての検討が今後の一つの重要な課題であろう。

5. まとめと今後の課題

以上、これまでの分析から明らかなように、学生による授業アンケート全体の評価値については、経年推移を見ても、各設問毎のポイントは、毎年ほぼ同様の全体評価値で推移していることが分かる。

したがって、今後も同じ項目や内容のアンケートを続けていくなれば、多少の変動や誤差はあっても、ほぼ同水準の結果となるであろうことが十分予想されるであろう。このような現状の下、われわれ教員間においても、現在のアンケートの有り様が年中行事化したと感じるのは否めない事実である。

今後ともこのようなアンケートを続けていき、授業改善に役立てていくためには、これまでややマンネリ化した感のある各アンケート項目の見直しや点検・整備が必要であり、そのうえでアンケート・システム全体の再構成が必要となつてこよう。

その際、現在、各教員の自由な判断で行っている「中間アンケート」も視野に入れるべきかも当然論点となつてくるであろうし、逆にこれまでまったく行われてこなかった定期試験に対する学生の評価等も入れるべきかどうかなどもその検討の対象となりうるであろう。さらには、例えば学内とくに法学部及び法学研究科における取り組みや状況なども視野に入れる必要があるし、他大学ロースクールでの取り組みなども参考にされるべきであろう。

なお、自由記述欄の取り扱いについては、誹謗中傷の類は減少傾向が見られるものの、なお授業（改善）と無関係のものが多く見られるとのことなので、多くの議論の末、今の匿名方式で一応の決着のついた現行のアンケート記入方法も含めて見直す必要があるだろう。また最近では、授業担当者からのアンケートによれば、学生の学力不足や理解力不足を危惧するコメントが寄せられるようになっている。いかに学生自身の満足度や達成感がふくらんだとしても、担当教員の中から見て、なお受講生の学力不足への不満が払拭されないならば両者の隔たりは解消されないままである。さらには、学修意欲の低い学生が散見されることも報告されるようになった。

このような深刻な事態をどうやって乗り越えることができるかは、基礎演習科目や特別

演習科目などの少人数教育を徹底して行うことが一つの解答であるかもしれないが、限られた人員の下での授業改善のための大きな課題であろう。

以 上

関西学院大学大学院司法研究科自己評価・FD委員会

曾和 俊文（委員長）

荒川 雅行

宇野 聡

亀井 尚也

神戸 秀彦

西尾 幸夫

<2011年度春学期開講授業科目一覽>

2011年度 春学期 授業科目一覧

科目名称	クラス	担当者名	曜日時限	履修者数					
				履修者数	1年	2年	3年	4年	聴講・その他
憲法Ⅰ(基本的人権論)	1	松井 幸夫	月2	24	20	1	3	0	0
憲法Ⅰ(基本的人権論)	2	松井 幸夫	月1	27	21	6	0	0	0
憲法Ⅱ(統治機構論)	1	永田 秀樹	火2	24	20	2	2	0	0
憲法Ⅱ(統治機構論)	2	永田 秀樹	火1	27	21	6	0	0	0
民法Ⅰ(契約法総論)	1	安井 宏	月1/木2	22	20	1	1	0	0
民法Ⅰ(契約法総論)	2	安井 宏	月2/木1	27	21	6	0	0	0
民法Ⅳ(不法行為法)	1	神戸 秀彦	金1	22	20	1	1	0	0
民法Ⅳ(不法行為法)	2	神戸 秀彦	金2	26	21	4	1	0	0
商法Ⅰ(商法・会社法入門)	1	西尾 幸夫	火1	22	20	1	1	0	0
商法Ⅰ(商法・会社法入門)	2	西尾 幸夫	火2	28	21	7	0	0	0
刑法Ⅰ(刑法の基礎)	1	豊田 兼彦	金2	21	20	0	1	0	0
刑法Ⅰ(刑法の基礎)	2	豊田 兼彦	金1	24	21	3	0	0	0
現代家族法	1	田中 通裕	火4	38	0	2	36	0	0
現代家族法	2	國府 剛	月4	2	0	2	0	0	0
憲法演習	1	永田 秀樹	木1	16	0	14	2	0	0
憲法演習	2	永田 秀樹	木3	18	0	14	4	0	0
憲法演習	3	永田 秀樹	木4	14	0	14	0	0	0
憲法演習	4	松井 幸夫	火2	18	0	12	6	0	0
憲法演習	5	松井 幸夫	火3	16	0	15	1	0	0
憲法演習	6	松井 幸夫	火5	14	0	14	0	0	0
行政法(行政訴訟法)	1	曾和 俊文	木2	24	0	20	4	0	0
行政法(行政訴訟法)	2	荏原 明則	水1	21	0	21	0	0	0
行政法(行政訴訟法)	3	曾和 俊文	木4	23	0	21	2	0	0
行政法(行政訴訟法)	4	荏原 明則	水3	21	0	21	0	0	0
民法演習Ⅰ(総則・物権)	1	松井 宏興	金2	17	0	15	2	0	0
民法演習Ⅰ(総則・物権)	2	松井 宏興	金4	14	0	14	0	0	0
民法演習Ⅰ(総則・物権)	3	神戸 秀彦	火5	20	0	14	6	0	0
民法演習Ⅰ(総則・物権)	4	安井 宏	水2	20	0	14	6	0	0
民法演習Ⅰ(総則・物権)	5	原田 剛	水3	20	0	11	9	0	0
民法演習Ⅰ(総則・物権)	6	田上 富信	金4	15	0	14	1	0	0
商法演習Ⅰ(会社法)	1	西尾 幸夫	金2	17	0	14	3	0	0
商法演習Ⅰ(会社法)	2	西尾 幸夫	金3	20	0	12	8	0	0
商法演習Ⅰ(会社法)	3	吉本 健一	金5	16	0	14	2	0	0
商法演習Ⅰ(会社法)	4	吉本 健一	金4	15	0	12	3	0	0
商法演習Ⅰ(会社法)	5	野田 輝久	木3	14	0	14	0	0	0
商法演習Ⅰ(会社法)	6	野田 輝久	木4	16	0	14	2	0	0
発展民事訴訟法	1	堤 龍弥	木2	27	0	22	5	0	0
発展民事訴訟法	2	堤 龍弥	木3	31	0	20	11	0	0
発展民事訴訟法	3	堤 龍弥	金2	20	0	18	2	0	0
発展民事訴訟法	4	堤 龍弥	金3	26	0	22	4	0	0
刑法演習	1	荒川 雅行	月3	16	0	13	3	0	0
刑法演習	2	荒川 雅行	月4	14	0	12	2	0	0
刑法演習	3	荒川 雅行	火3	15	0	14	1	0	0
刑法演習	4	豊田 兼彦	木4	15	0	14	1	0	0
刑法演習	5	豊田 兼彦	金4	14	0	14	0	0	0
刑法演習	6	豊田 兼彦	木5	16	0	16	0	0	0
刑事訴訟法演習	1	川崎 英明	月3	16	0	13	3	0	0
刑事訴訟法演習	2	川崎 英明	月5	13	0	13	0	0	0
刑事訴訟法演習	3	川崎 英明	火3	17	0	15	2	0	0
刑事訴訟法演習	4	川崎 英明	火5	16	0	15	1	0	0
刑事訴訟法演習	5	財前 昌和	火4	20	0	15	5	0	0
刑事訴訟法演習	6	財前 昌和	火5	20	0	12	8	0	0
商行為法・手形小切手法		塚本 和彦	金4	2	0	0	2	0	0
民事法総合演習Ⅰ(不動産紛争の処理)	1	松井 宏興	水2	20	0	0	20	0	0
民事法総合演習Ⅰ(不動産紛争の処理)	2	神戸 秀彦	木5	11	0	0	11	0	0
民事法総合演習Ⅰ(不動産紛争の処理)	3	松井 宏興	水1	20	0	0	20	0	0
民事法総合演習Ⅰ(不動産紛争の処理)	4	渡邊 力	水2	19	0	0	19	0	0
民事法総合演習Ⅰ(不動産紛争の処理)	5	神戸 秀彦	水1	18	0	0	18	0	0
商事法総合演習	1	西尾 幸夫	火4	7	0	0	7	0	0
商事法総合演習	2	村上 博一	木4	14	0	0	14	0	0

2011年度 春学期 授業科目一覧

科目名称	クラス	担当者名	曜日時限	履修者数					
				履修者数	1年	2年	3年	4年	聴講・その他
刑事法総合演習	1	財前 昌和	水1	14	0	0	14	0	0
刑事法総合演習	2	財前 昌和	水2	13	0	0	13	0	0
刑事法総合演習	3	財前 昌和	水3	14	0	0	14	0	0
刑事法総合演習	4	巽 昌章	月4	12	0	0	12	0	0
刑事法総合演習	5	巽 昌章	火1	7	0	0	7	0	0
刑事法総合演習	6	巽 昌章	火2	14	0	0	14	0	0
刑事法総合演習	7	巽 昌章	火3	14	0	0	14	0	0
専門職責任(法曹倫理)	1	石川 寛俊	火2	21	0	21	0	0	0
専門職責任(法曹倫理)	2	豊川 義明	水2	21	0	21	0	0	0
専門職責任(法曹倫理)	3	石川 寛俊	火3	21	0	20	1	0	0
専門職責任(法曹倫理)	4	豊川 義明	水3	22	0	21	1	0	0
民事ローヤリング I	1	池田 直樹	火1	12	0	12	0	0	0
民事ローヤリング I	2	池田 直樹	火2	12	0	11	1	0	0
民事ローヤリング I	3	石川 寛俊	水3	8	0	7	1	0	0
民事ローヤリング I	4	亀井 尚也	水1	12	0	12	0	0	0
民事ローヤリング I	5	菊元 成典	金2	9	0	9	0	0	0
民事ローヤリング I	6	小山 章松	水2	12	0	10	2	0	0
民事ローヤリング I	7	関戸 一考	金5	12	0	12	0	0	0
民事ローヤリング I	8	細川 歆子	金2	12	0	9	3	0	0
民事ローヤリングⅢ		細川 歆子/伊元 啓/高橋 直子	金4	5	0	0	5	0	0
民事裁判実務 I (要件事実及び民事訴訟手続の基礎)	1	伊元 啓	火5	10	0	0	10	0	0
民事裁判実務 I (要件事実及び民事訴訟手続の基礎)	2	塩川 茂	金1	9	0	0	9	0	0
民事裁判実務 I (要件事実及び民事訴訟手続の基礎)	3	塩川 茂	金2	8	0	0	8	0	0
民事裁判実務Ⅱ(争点整理・立証と保全・執行の基礎)	1	池田 直樹	水2	9	0	0	9	0	0
クリニックA	1	亀井 尚也	金4	4	0	0	4	0	0
クリニックA	2	菊元 成典	金4	4	0	0	4	0	0
クリニックB	1	池田 直樹	水5	1	0	0	1	0	0
クリニックB	2	関戸 一考	水5	2	0	0	2	0	0
刑事模擬裁判		奥山 豪/巽 昌章/長部 研太郎	月5	18	0	0	18	0	0
英米法総論	1	丸田 隆	木5	27	20	7	0	0	0
英米法総論	2	丸田 隆	水3	28	11	17	0	0	0
英米法総論	3	丸田 隆	木2	35	10	25	0	0	0
法社会学		守屋 明	木2	25	0	2	23	0	0
公共政策論		北山 俊哉	水2	13	1	1	13	0	0
会計学		安原 徹	水1	32	1	8	23	0	0
労働法Ⅱ(労使関係法と労働争訟法)		豊川 義明	金3	33	0	0	33	0	0
労働法演習		木村 一成/徳井 義幸	金5	22	0	0	21	0	1
税法		谷口 勢津夫	火3	9	0	0	8	0	1
税務争訟法		関戸 一考	金3	12	0	0	12	0	0
倒産処理法Ⅰ(破産手続)		東畠 敏明	火1	23	0	4	17	0	2
知的財産権法Ⅰ(特許権)		重富 貴光	木3	17	0	3	14	0	0
知的財産権法演習Ⅰ(特許権)		重富 貴光	木4	9	0	0	9	0	0
信託法		木村 仁	金2	8	0	0	8	0	0
企業法実務Ⅰ(企業統治とリスク管理)		増本 充香	木2	30	0	0	30	0	0
国際法		山形 英郎	金3	5	0	1	4	0	0
国際法演習		山形 英郎	金4	2	0	0	2	0	0
国際人権法		坂元 茂樹	月3	20	0	0	20	0	0
アメリカ会社法		J. ムステッキー	木2	2	0	0	2	0	0
日本法(英語)		丸田 隆	月3	1	0	0	1	0	0
現代正義論		植木 一幹	金3	6	0	0	6	0	0
消費者法		澤 登	金1	57	0	0	57	0	0
犯罪学		前野 育三	月4	64	0	1	63	0	0
基礎演習Ⅰ	1	宇野 聡	火3	7	7	0	0	0	0
基礎演習Ⅰ	2	宇野 聡	水2	7	7	0	0	0	0
基礎演習Ⅰ	3	丸田 隆	水2	7	7	0	0	0	0
基礎演習Ⅰ	4	荒川 雅行	金3	7	7	0	0	0	0
基礎演習Ⅰ	5	亀井 尚也	金3	7	7	0	0	0	0
基礎演習Ⅰ	6	堤 龍弥	金5	7	6	1	0	0	0
特別演習	2	池田 直樹	水1	1	0	0	1	0	0
特別演習	3	宇野 聡	火2	10	0	0	10	0	0
特別演習	4	荏原 明則	金4	11	0	0	11	0	0
特別演習	12	松井 宏興	火3	3	0	0	3	0	0
特別演習	15	安井 宏	月3	7	0	0	7	0	0
リーガルトピックス		酒井 紀子	集中	27	0	0	27	0	0

<アンケートフォーム>

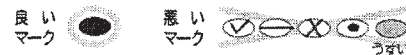
授業に関するアンケート

関西学院大学大学院司法研究科

このアンケートは、より充実した授業にするための資料とするものです。
この調査結果が、あなたの成績に影響することはありません。率直に、かつ責任ある回答をしてください。
回答は、該当する選択肢の数字を塗りつぶしてください。

■記入の注意

- ①HBの鉛筆でマークしてください。
- ②訂正はきれいに消し、消しくずを残さないでください。



■実施学期:

■授業科目名:

クラス

■授業担当者名:

■曜日・時限:

曜 限

*あなた自身のことについて

①学 年

- ① 1年 ② 2年 ③ 3年

②既修者・未修者

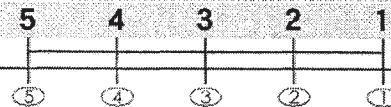
- ① 既修者 ② 未修者

③出身学部

- ① 法学部(法律学専攻) ② その他

(1)教員の授業内容と方法について

回答選択肢 5:強くそう思う 4:そう思う 3:どちらとも言えない 2:そう思わない 1:全くそう思わない



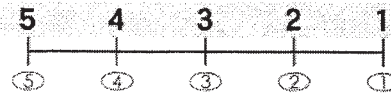
- Q1. 授業内容は、シラバスで示された主題や目的に十分に沿っていたと思いますか。
- Q2. 教員は、学生の理解度を確認しながら授業を進める工夫をしていたと思いますか。
- Q3. 教員は、十分に準備をして授業に臨んでいたと思いますか。
- Q4. 教員は、双方向、多方向授業の工夫をしていたと思いますか。
- Q5. 教員の説明は、わかりやすかったと思いますか。
- Q6. 教員は、履修者の質問に的確に答えていたと思いますか。
- Q7. あなたは、この授業によって法的知識や法的思考力(分析力や批判力)が増大したと思いますか。
- Q8. あなたは、この授業は履修者にとって満足できるものであったと思いますか。

(2)学生自身の授業に臨む態度について

- Q9. あなたは、この授業でわからないところがあれば質問をしたと思いますか。
- Q10. あなたは、この授業を受けるに当たって十分に予習をしたと思いますか。
- Q11. あなたは、この授業を受けるに当たって十分に復習をしたと思いますか。

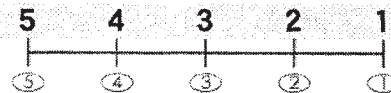
(3)授業レベル・規模について

回答選択肢 5:多すぎる 4:少し多い 3:適度 2:どちらかと言えば多かった 1:楽だった



Q12. 授業で求められる予習の量はどう感じましたか。

回答選択肢 5:多い 4:やや多い 3:適切 2:やや少ない 1:少ない



Q13. 1クラスあたりの履修者数は適切でしたか。

(4)追加設問(担当教員の指示があればこたえてください)

回答選択肢 5: 4: 3: 2: 1:



Q14.

裏面につづきます

(5) 記述評価項目(この項目の回答は筆跡がわからないよう全てタイプ打ちされます)

a) この授業で良かったところを具体的に書いてください。

A rectangular box for writing with horizontal dashed lines.

b) この授業をよりよくなるための提案があれば書いてください。

A rectangular box for writing with horizontal dashed lines.

c) この授業を受けてあなたが得た学習上の成果はどのようなものでしたか。具体的に書いてください。

A rectangular box for writing with horizontal dashed lines.

ご協力ありがとうございました

ロースクール教員の担当科目自己評価表

教員氏名：

担当科目名：

これは、ロースクール教員が2011年度春学期に担当したご自身の科目について、ふりかえてその評価を行うものです。

(1) (2) (3)については該当する番号欄に○印を、(4)については自由にご記入ください。

なお、この自己評価は、学生による授業評価とあわせてロースクールの教員と学生を対象に公表します。

設問内容		強く そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	そう 思わない	全くそう 思わない
		5	4	3	2	1
(1) 担当した授業について						
設問1	授業を、シラバスで示された主題や目的に十分に沿っておこなったと思いますか。					
設問2	学生の授業理解度を確認しながら授業を進める工夫をしたと思いますか。					
設問3	授業には、十分に準備をして臨んだと思いますか。					
設問4	双方向、多方向授業の工夫をしたと思いますか。					
設問5	授業では、わかりやすい説明をしたと思いますか。					
設問6	履修者の質問には、的確に応えたと思いますか。					
設問7	授業によって、履修者の法的知識や法的思考力（分析力や批判力）が増大したと思いますか。					
設問8	授業は、履修者にとって満足できるものであったと思いますか。					
(2) 履修者自身の授業に臨む態度について						
設問9	履修者は、授業でわからないところがあれば質問をしていたと思いますか。					
設問10	履修者は、授業を受けるに当たって十分に予習をしていたと思いますか。					
設問11	履修者は、授業を受けるに当たって十分に復習をしていたと思いますか。					
(3) 授業レベル・規模について						
設問12	授業で求める予習の量を履修者がどう感じていたと思いますか。	多すぎる	少し多い	適度	どちらかと言え ば楽だった	楽だった
設問13	履修者にとって、1クラスあたりの履修者数は適切であったと思いますか。	多い	やや多い	適切	やや少ない	少ない
(4) 記述評価項目						
a) 授業で最も力を入れたことは何ですか。具体的にお書きください。						
b) 授業を担当するにあたって、今後、改善ないし工夫した方がよいと考えている点があればお書きください。						
c) 授業に関して、ほかに気づいたところがあればお書きください。						

2011年度春学期 授業評価結果に対するコメント

教員氏名：

担当科目名：

1. 学生の評価に対するコメント

--

2. 今後の改善点などについて

--

3. その他

--

＜アンケート全体集計結果＞

＜アンケート科目群別集計結果＞

授業に関するアンケート全体集計結果

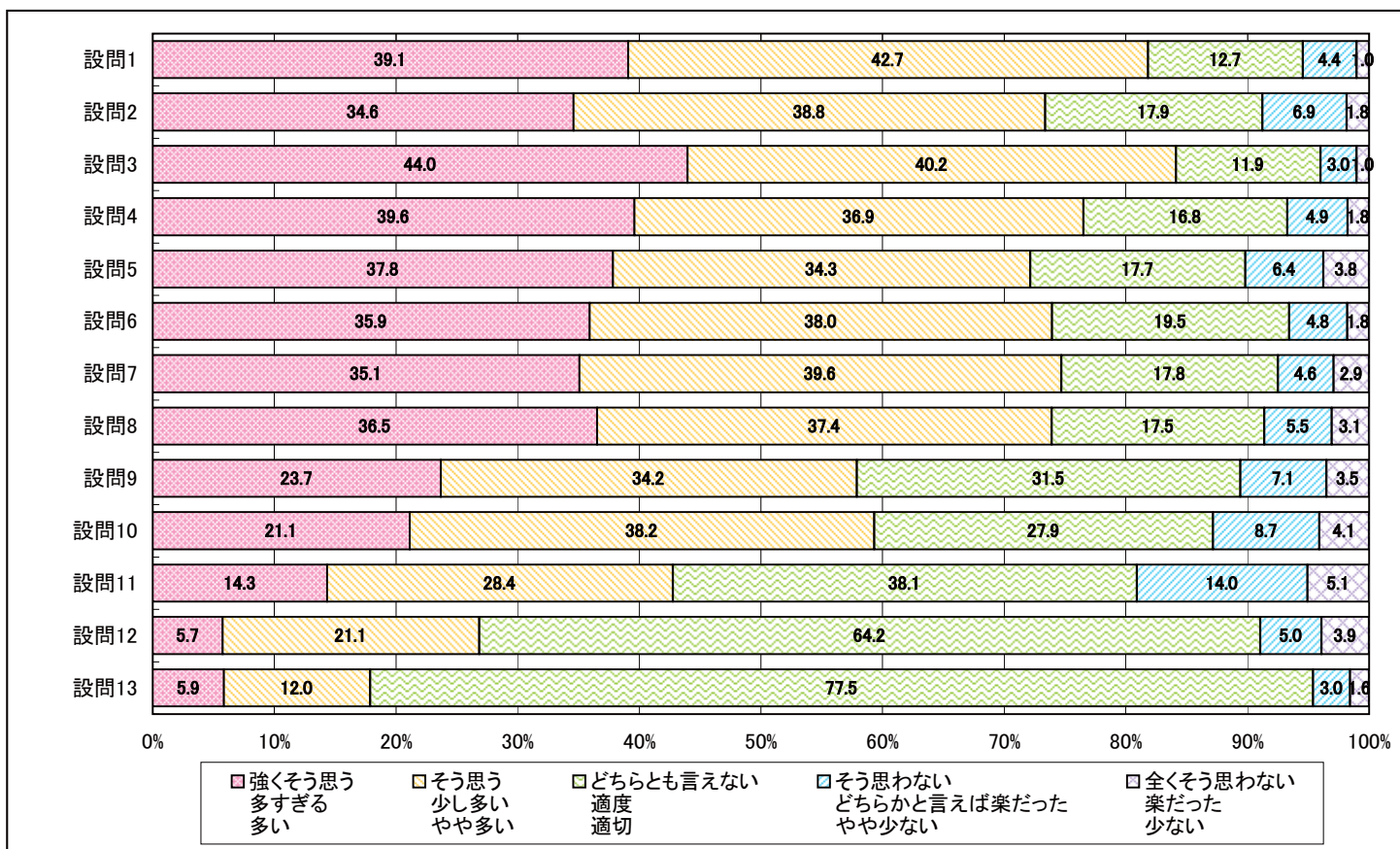
回答数	学年				既修者・未修者		出身学部	
	1年	2年	3年	他学部・研究科	既修者	未修者	法学部 (法律学専攻)	その他
1,862	318	781	733	3	692	1,140	1,448	387

設問	設問内容	強く そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	そう 思わない	全くそう 思わない	有効 回答数	全科目 平均値
		設問1	授業内容は、シラバスで示された主題や目的に十分に沿っていたと思いますか。	727 39.1%	795 42.7%	237 12.7%		
設問2	教員は、学生の理解度を確認しながら授業を進める工夫をしていたと思いますか。	643 34.6%	721 38.8%	332 17.9%	129 6.9%	34 1.8%	1,859	4.0
設問3	教員は、十分に準備をして授業に臨んでいたと思いますか。	818 44.0%	747 40.2%	221 11.9%	55 3.0%	19 1.0%	1,860	4.2
設問4	教員は、双方向、多方向授業の工夫をしていたと思いますか。	737 39.6%	687 36.9%	312 16.8%	92 4.9%	33 1.8%	1,861	4.1
設問5	教員の説明は、わかりやすかったと思いますか。	704 37.8%	638 34.3%	329 17.7%	119 6.4%	70 3.8%	1,860	4.0
設問6	教員は、履修者の質問に的確に答えていたと思いますか。	667 35.9%	706 38.0%	362 19.5%	89 4.8%	33 1.8%	1,857	4.0
設問7	あなたは、この授業によって法的知識や法的思考力(分析力や批判力)が増大したと思いますか。	652 35.1%	737 39.6%	331 17.8%	85 4.6%	54 2.9%	1,859	4.0
設問8	あなたは、この授業は履修者にとって満足できるものであったと思いますか。	679 36.5%	695 37.4%	325 17.5%	103 5.5%	57 3.1%	1,859	4.0
設問9	あなたは、この授業でわからないところがあれば質問をしたと思いますか。	439 23.7%	634 34.2%	584 31.5%	131 7.1%	65 3.5%	1,853	3.7
設問10	あなたは、この授業を受けるに当たって十分に予習をしたと思いますか。	392 21.1%	709 38.2%	517 27.9%	162 8.7%	76 4.1%	1,856	3.6
設問11	あなたは、この授業を受けるに当たって十分に復習をしたと思いますか。	266 14.3%	528 28.4%	708 38.1%	260 14.0%	94 5.1%	1,856	3.3
設問12	授業で求められる予習の量は感じましたか。	106 5.7%	389 21.1%	1,184 64.2%	93 5.0%	72 3.9%	1,844	
設問13	1クラスあたりの履修者数は適切でしたか。	108 5.9%	222 12.0%	1,431 77.5%	56 3.0%	29 1.6%	1,846	

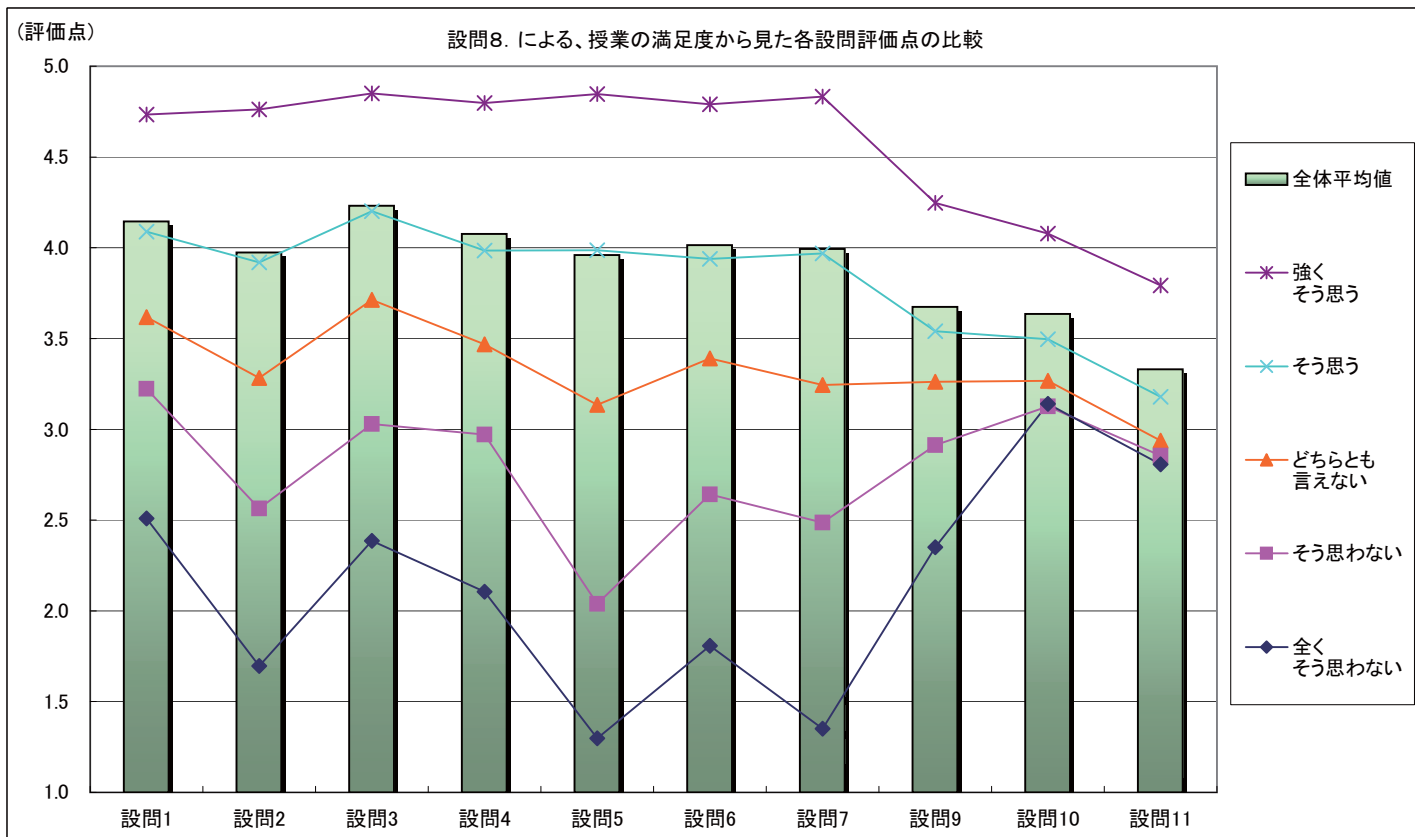
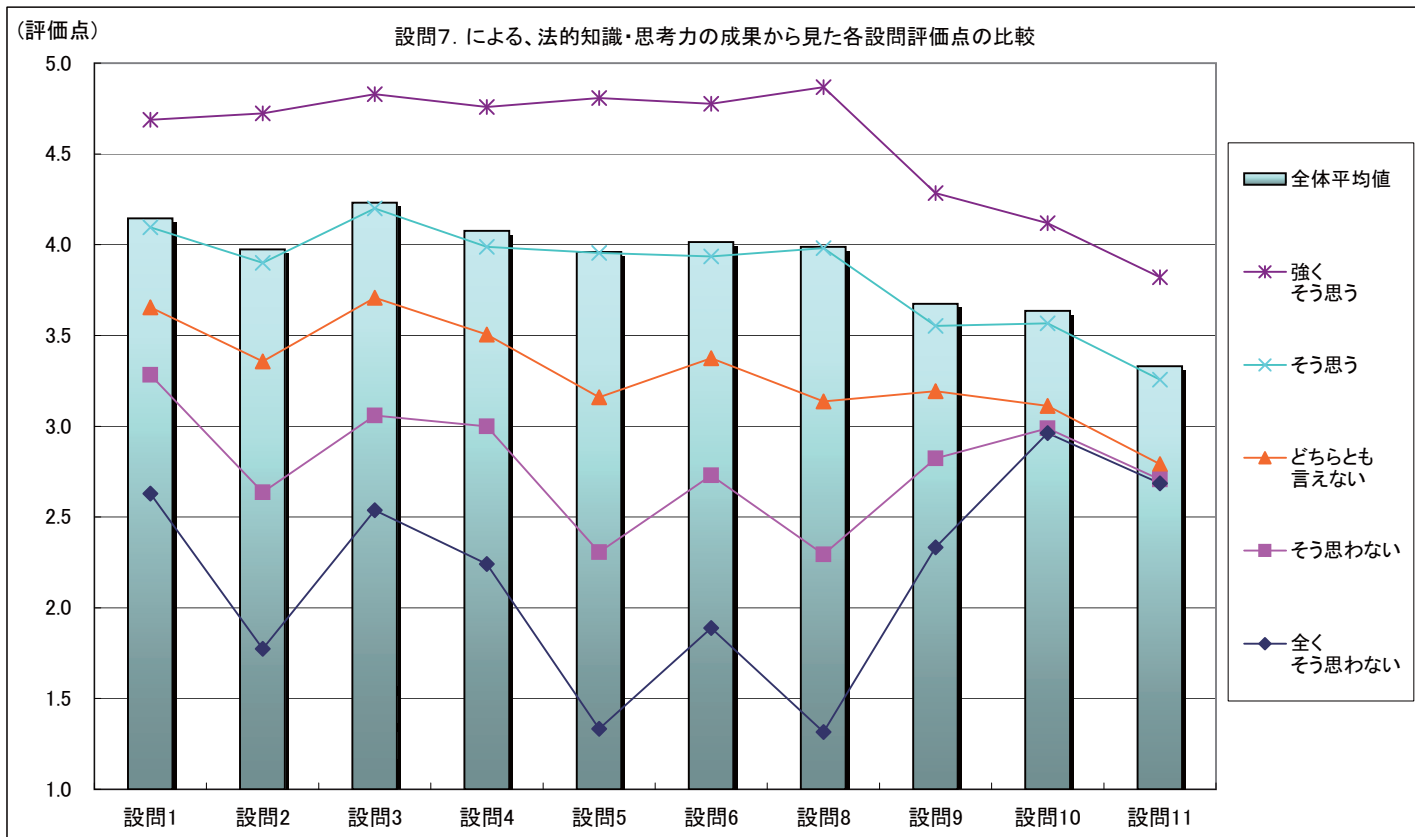
(上段：度数、下段：比率)

(平均値の見方)

平均値は、評価の値で計算しています。評価の値は、強くそう思う：評価5、そう思う：評価4、どちらとも言えない：評価3、そう思わない：評価2、全くそう思わない：評価1、となります。



授業に関するアンケート全体集計結果 (評価点比較)



	設問内容	全体	法律基本 科目(1年)	法律基本 科目(2年)	法律基本 科目(3年)	実務基礎 科目	基礎法学・ 隣接科目	展開先端 科目	特別演習 科目
設問1	授業内容は、シラバスで示された主題や目的に十分に沿っていたと思いますか。	4.1	3.8	4.1	4.5	4.2	4.2	4.3	4.1
設問2	教員は、学生の理解度を確認しながら授業を進める工夫をしていたと思いますか。	4.0	3.7	3.9	4.4	4.1	3.9	4.0	4.5
設問3	教員は、十分に準備をして授業に臨んでいたと思いますか。	4.2	4.1	4.2	4.6	4.2	4.3	4.3	4.4
設問4	教員は、双方向、多方向授業の工夫をしていたと思いますか。	4.1	3.7	4.0	4.6	4.3	4.3	4.0	4.5
設問5	教員の説明は、わかりやすかったと思いますか。	4.0	3.8	3.8	4.4	4.1	4.1	4.0	4.3
設問6	教員は、履修者の質問に的確に答えていたと思いますか。	4.0	3.9	3.9	4.4	4.1	4.1	4.0	4.4
設問7	あなたは、この授業によって法的知識や法的思考力(分析力や判断力)が増大したと思いますか。	4.0	4.1	3.8	4.5	4.0	3.9	4.0	4.3
設問8	あなたは、この授業は履修者にとって満足できるものであったと思いますか。	4.0	3.9	3.8	4.4	4.0	4.1	4.1	4.2
設問9	あなたは、この授業でわからないところがあれば質問をしたと思いますか。	3.7	3.7	3.7	4.1	3.6	3.3	3.5	4.0
設問10	あなたは、この授業を受けるに当たって十分に予習をしたと思いますか。	3.6	3.5	3.9	4.3	3.6	2.8	3.2	3.7
設問11	あなたは、この授業を受けるに当たって十分に復習をしたと思いますか。	3.3	3.6	3.4	3.8	3.2	2.7	3.1	3.3
	(参考)有効回答数	1,862	290	658	180	221	146	301	66

授業評価アンケート全体評価値の経年推移一覧

	2004		2005		2006		2007		2008		2009		2010		2011	
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
設問1	4.0	4.2	4.2	4.2	4.1	4.2	4.0	4.0	4.0	4.2	4.1	4.1	4.2	4.2	4.1	-
設問2	3.9	4.2	4.0	4.2	4.0	4.2	4.0	4.1	3.9	4.1	4.0	4.1	4.0	4.1	4.0	-
設問3	4.3	4.5	4.3	4.4	4.2	4.4	4.2	4.2	4.2	4.3	4.2	4.3	4.2	4.3	4.2	-
設問4	-	-	4.0	4.2	3.9	4.1	3.9	4.0	4.0	4.1	4.1	4.1	4.0	4.1	4.1	-
設問5	3.9	4.1	4.0	4.2	4.0	4.1	4.0	4.0	3.9	4.1	4.1	4.2	4.1	4.2	4.0	-
設問6	-	-	4.0	4.2	4.0	4.1	4.0	4.0	3.9	4.1	4.0	4.1	4.0	4.1	4.0	-
設問7	3.8	4.0	3.9	4.1	3.9	4.1	3.9	4.0	3.9	4.1	4.0	4.1	4.0	4.1	4.0	-
設問8	3.9	4.0	3.9	4.1	3.9	4.1	3.9	4.0	3.9	4.1	4.0	4.1	4.0	4.1	4.0	-
設問9	3.6	3.7	3.5	3.7	3.5	3.7	3.5	3.7	3.6	3.7	3.6	3.7	3.7	3.7	3.7	-
設問10	3.7	3.8	3.5	3.7	3.6	3.7	3.4	3.6	3.6	3.7	3.6	3.7	3.4	3.6	3.6	-
設問11									3.2	3.5	3.2	3.4	3.2	3.3	3.3	-

注1) 2005年度に設問の順序・内容がかなり変更されて、現行の設問1および設問3～9となっている。
 そこで、経年推移の比較がしやすいよう、2004年度の欄には現行の設問内容に対応する2004年度の設問についての評価値を記入した。

注2) 設問2は2004年度～2007年度と2008年度以降で下記のとおり設問内容が変わったが、便宜上両者ともに設問2の欄に並べて記入した。

注3) 2004年度～2007年度には「あなたは、この授業を受けるに当たって十分に予習と復習をしましたか。」という設問を行っていたが、2008年度より設問10「あなたは、この授業を受けるに当たって十分に予習をしたと思いますか。」と設問11「あなたは、この授業を受けるに当たって十分に復習をしたと思いますか。」に分けたため、推移はそれに対応させて、2004年度～2007年度については設問10と設問11を合体させた欄にこの設問の評価値を記入した。

設問内容

設問1	授業内容は、シラバスで示された主題や目的に十分に沿っていたと思いますか。
設問2	教員は、学生の理解度を確認しながら授業を進める工夫をしていたと思いますか。 (2004～2007年度) 板書やプリント、OHP、ビデオ等の補助資料は、授業の理解に役立ちましたか。
設問3	教員は、十分に準備をして授業に臨んでいたと思いますか。
設問4	教員は、双方向、多方向授業の工夫をしていたと思いますか。
設問5	教員の説明は、わかりやすかったと思いますか。
設問6	教員は、履修者の質問に的確に答えていたと思いますか。
設問7	あなたは、この授業によって法的知識や法的思考力(分析力や判断力)が増大したと思いますか。
設問8	あなたは、この授業は履修者にとって満足できるものであったと思いますか。
設問9	あなたは、この授業でわからないところがあれば質問をしたと思いますか。
設問10	あなたは、この授業を受けるに当たって十分に予習をしたと思いますか。
設問11	あなたは、この授業を受けるに当たって十分に復習をしたと思いますか。

<アンケート授業別集計結果(サンプル)>

授業に関するアンケート授業別集計結果

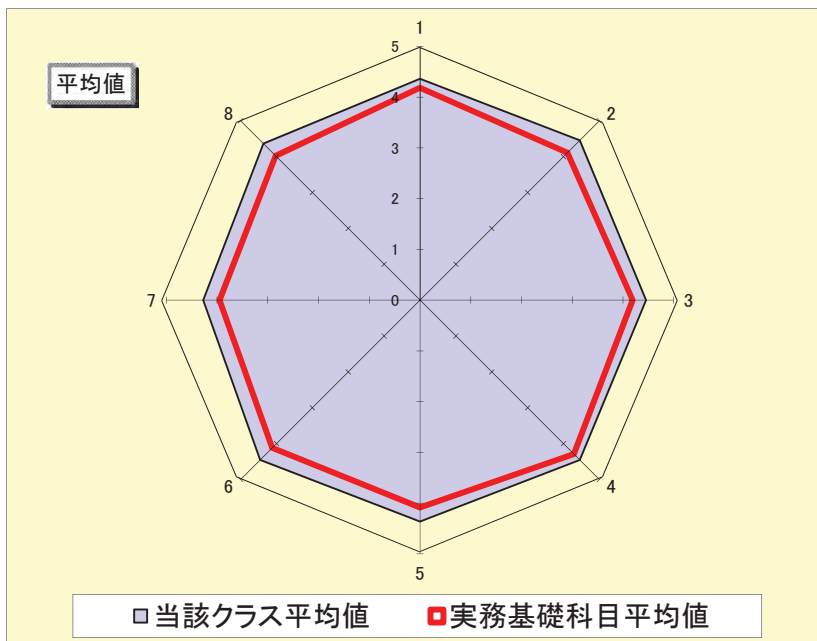
2011年度春学期

授業番号 :
 科目 :
 クラス、曜日・時限 :
 担当者 :
 履修者数 :

回答数	学年				既修者・未修者		出身学部	
	1年	2年	3年	他学部・研究科	既修者	未修者	法学部 (法律学専攻)	その他
11	0	11	0	0	3	8	9	2

設問	設問内容	強く そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	そう 思わない	全くそう 思わない	有効 回答数	当該クラス 平均値	実務基礎 科目 平均値	当該科目 平均値
設問1	授業内容は、シラバスで示された主題や目的に十分に沿っていたと思いますか。	4 36.4%	7 63.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11	4.4	4.2	4.2
設問2	教員は、学生の理解度を確認しながら授業を進める工夫をしていたと思いますか。	5 45.5%	6 54.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11	4.5	4.1	4.4
設問3	教員は、十分に準備をして授業に臨んでいたと思いますか。	5 45.5%	6 54.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11	4.5	4.2	4.2
設問4	教員は、双方向、多方向授業の工夫をしていたと思いますか。	5 45.5%	6 54.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11	4.5	4.3	4.4
設問5	教員の説明は、わかりやすかったと思いますか。	5 45.5%	5 45.5%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	11	4.4	4.1	4.4
設問6	教員は、履修者の質問に的確に答えていたと思いますか。	5 45.5%	6 54.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11	4.5	4.1	4.3
設問7	あなたは、この授業によって法的知識や法的思考力(分析力や批判力)が増大したと思いますか。	3 27.3%	8 72.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11	4.3	4.0	4.3
設問8	あなたは、この授業は履修者にとって満足できるものであったと思いますか。	4 36.4%	7 63.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11	4.4	4.0	4.2
設問9	あなたは、この授業でわからないところがあれば質問をしたと思いますか。	2 18.2%	5 45.5%	4 36.4%	0 0.0%	0 0.0%	11	3.8	3.6	3.7
設問10	あなたは、この授業を受けるに当たって十分に予習をしたと思いますか。	3 27.3%	5 45.5%	2 18.2%	1 9.1%	0 0.0%	11	3.9	3.6	3.9
設問11	あなたは、この授業を受けるに当たって十分に復習をしたと思いますか。	3 27.3%	4 36.4%	3 27.3%	1 9.1%	0 0.0%	11	3.8	3.2	3.3
設問12	授業で求められる予習の量はどの感じましたか。	1 9.1%	6 54.5%	4 36.4%	0 0.0%	0 0.0%	11			
設問13	1クラスあたりの履修者数は適切でしたか。	2 18.2%	2 18.2%	6 54.5%	1 9.1%	0 0.0%	11			
設問14	追加設問	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0			

(上段：度数、下段：比率)



平均値の見方

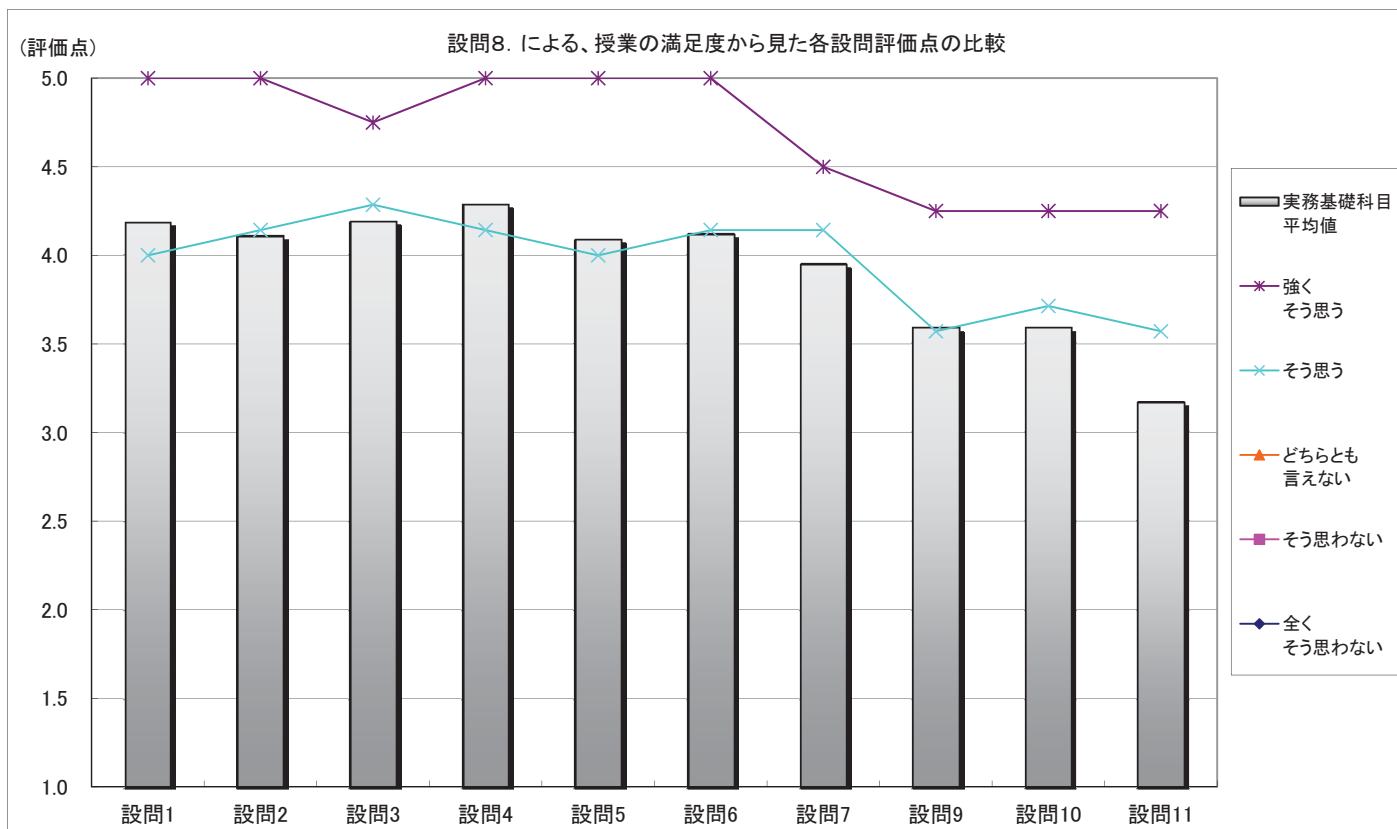
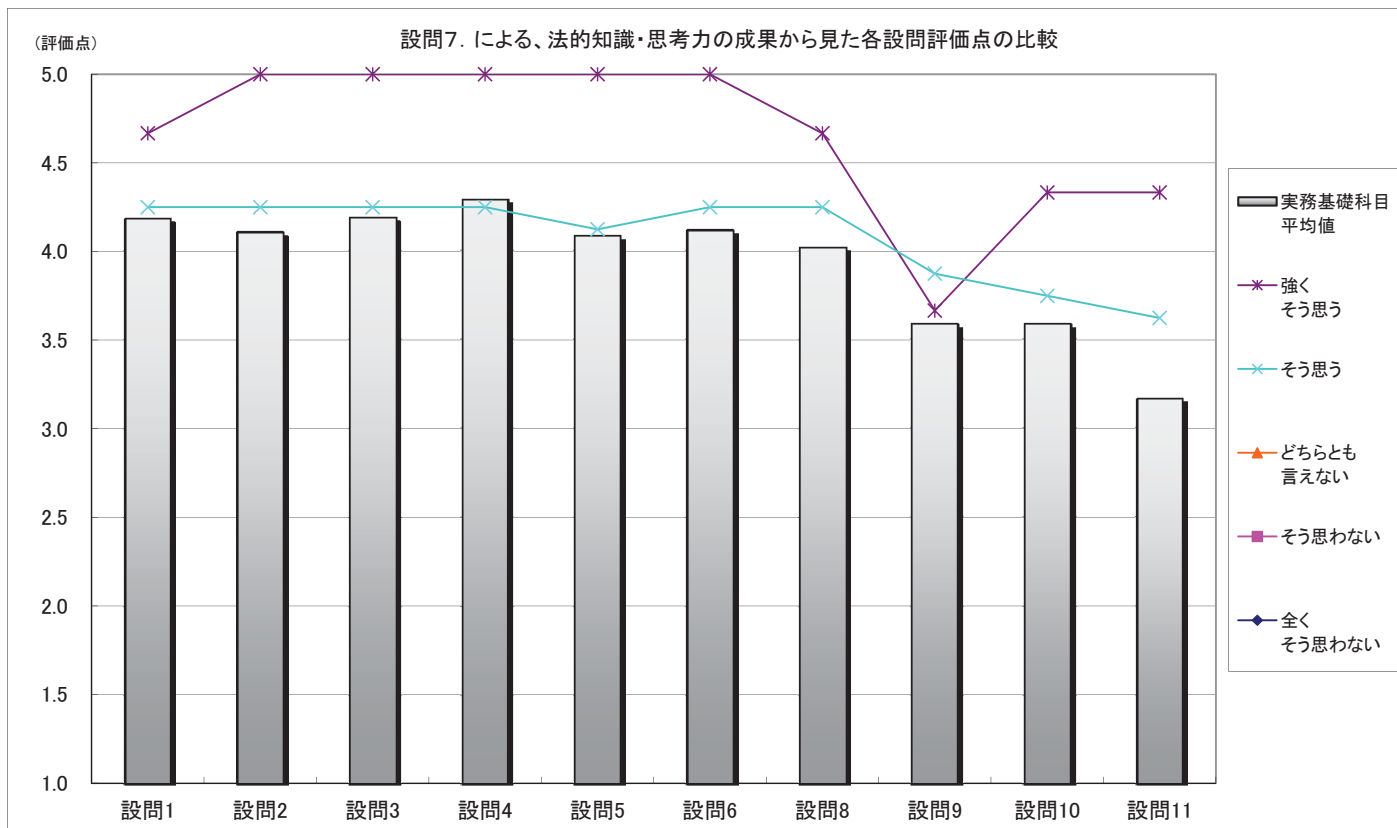
平均値は、評価の値で計算しています。評価の値は、

- 強くそう思う : 評価5
- そう思う : 評価4
- どちらとも言えない : 評価3
- そう思わない : 評価2
- 全くそう思わない : 評価1

となります。

授業に関するアンケート授業別集計結果 (評価点比較)

授業番号 :
 科目 :
 クラス、曜日・時限 :
 担当者 :
 履修者数 :



ロースクール教員の担当科目自己評価表

教員氏名：

担当科目名：

これは、ロースクール教員が2011年度春学期に担当したご自身の科目について、ふりかえってその評価を行うものです。

(1) (2) (3)については該当する番号欄に○印を、(4)については自由にご記入ください。
 なお、この自己評価は、学生による授業評価とあわせてロースクールの教員と学生を対象に公表します。

設問内容		強く そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	そう 思わない	全くそう 思わない
		5	4	3	2	1
(1) 担当した授業について						
設問1	授業を、シラバスで示された主題や目的に十分に沿っておこなったと思いますか。		○			
設問2	学生の授業理解度を確認しながら授業を進める工夫をしたと思いますか。		○			
設問3	授業には、十分に準備をして臨んだと思いますか。			○		
設問4	双方向、多方向授業の工夫をしたと思いますか。		○			
設問5	授業では、わかりやすい説明をしたと思いますか。		○			
設問6	履修者の質問には、的確に応えたと思いますか。			○		
設問7	授業によって、履修者の法的知識や法的思考力（分析力や批判力）が増大したと思いますか。		○			
設問8	授業は、履修者にとって満足できるものであったと思いますか。			○		
(2) 履修者自身の授業に臨む態度について						
設問9	履修者は、授業でわからないところがあれば質問をしていたと思いますか。			○		
設問10	履修者は、授業を受けるに当たって十分に予習をしていたと思いますか。			○		
設問11	履修者は、授業を受けるに当たって十分に復習をしていたと思いますか。			○		
(3) 授業レベル・規模について						
設問12	授業で求める予習の量を履修者がどう感じていたと思いますか。	多すぎる	少し多い	適度	どちらかと言え ば楽だった	楽だった
設問13	履修者にとって、1クラスあたりの履修者数は適切であったと思いますか。	多い	やや多い	適切	やや少ない	少ない
			○			
(4) 記述評価項目						
a) 授業で最も力を入れたことは何ですか。具体的にお書きください。						
事案の事実関係を的確に把握して、法律問題を解く能力を養うことと、できるだけ自分の頭で基本から考えてそれを自分の言葉で正確に表現する力を付けること。 						
b) 授業を担当するにあたって、今後、改善ないし工夫した方がよいと考えている点があればお書きください。						
ベーシッククラスということもあり、問題の量を減らしたが、それでもまだ多かったかもしれない。なお、教員間で授業のどこに重点を置くか、大まかな打ち合わせはできていたが、私自身のせい打ち合わせが不十分な回も何回もあり、授業進行がやや行き当たりばったりの時もあったので、その点は改善したい。 						
c) 授業に関して、ほかに気づいたところがあればお書きください。						
授業に毎回のように欠席者がおり、その理由が体調不良というよりも、予習がちゃんとできなかったので欠席しているのではないか、と思うことも多かった。予習をきっちりして授業に食いついてきている人が一部であり、学生の姿勢に差が大きいように感じた。また、質問に対する学生の発言が、概して声が小さく、自信なげのことが多かった。予習をしっかりしたうえで、間違えてもよいからもっと大きな声で発言して欲しい。 						

2011年度春学期 授業評価結果に対するコメント

教員氏名：

担当科目名：

1. 学生の評価に対するコメント

私としては満足できる授業ではなく、大半の学生の評価は良かったものの、一部の学生は評価してくれなかったようである。予習や復習をよくしたとしながら満足度の低い学生がいることも気になる場所である。基本的な理解が不足しているのではないかと思う学生や、教員の側から見て授業に臨む態度に疑問を抱くような学生もおり、授業の焦点をどのレベルの学生に合わせるのか、とまどっているのも確かである。「質問に対する答えを早く言うべき」とかレジュメを配付して欲しいとの自由記述があり、授業を効率的に進めて欲しいとの要望であると思われるが、そのことの是非はともかくとして、授業の進行がもたもたしているという印象があるのかも知れない。

2. 今後の改善点などについて

授業を丁寧に進めながらも、同時に効率的な進め方も工夫したい。特に、予定していたところまでいかずに次回に続きをするというのは、授業が常に中途半端なところで終わったりするので、あまり良くないと思う。

3. その他

2011年度秋学期授業評価報告書

2011年12月1日

編集 2011年度関西学院大学大学院司法研究科自己評価・FD委員会

発行 関西学院大学大学院司法研究科

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155

関西学院大学大学院司法研究科

(ロースクール)

〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155

TEL : 0798-54-6339 FAX : 0798-54-6395